

研究所だより

第344号
2014年11月10日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3016

<半日教研>

授業者の先生方、ご苦労様でした。活発な意見交換や情報交換ができたものと思われま。国語部会の授業記録を掲載します。

第6学年 国語科学習指導案

2014年11月5日（水曜日）5校時
男子13 女子14 計27名
指導者 助村 紗恵

- 1, 教材名 詩「天国」（新見 南吉）
- 2, 指導感

やさしい背中を持つお母さんは、子ども達の心のふるさとであり、安心して飛び込んでいける世界である。この詩はサンドイッチ型の構成や文末表現の変化・反復と作品の特質やおもしろさがある。またイメージの筋を読むことによって母というテーマについての思いの深まりはもちろんのこと、詩人の想像力、表現力に響きを持って学び、詩の持つ深さ、豊かさを身をもって味わうことができる作品だと思う。

本学級の児童は、全体的に明るく無邪気で素直な子ども達である。真面目に学習にも取り組んでいる。大きな声での音読や、自分の考えを持ち、発表しようと1学期から取り組んでいるが、理解するまでに時間のかかる子や、物事を深く追求したり、イメージすることができにくい子どももいる。自信のなさから発表時の声が小さくなる子どももいる。

指導においては、一つひとつの言葉を大切にイメージさせ、自分の思いを発表し合い、みんなで学習することの楽しさも味わわせたい。またこの期に、大人の作った詩を鑑賞することによって、詩表現の持つおもしろさ、深さといったものに触れさせ、あわせて詩を読み味わう手立てを身につけさせたいと考えている。

- 3, 指導目標

- ・イメージの筋を追うことによって、作品の持つおもしろさ・特質を読み味わう。
- ・友だちの意見や考えをしっかりと聞き、自分の考えを深め、発表する。
- ・主題を読み取る。

- 4, 評価規準

- ・詩に興味を持ち、進んで自分の読みや考えを表現しようとしている。（関心・意欲）
- ・友だちの考えと比べながら自分の考えを述べている。（話す・聞く能力）
- ・作者のものの見方について考えながら読んでいる。（読む能力）

- 5, 指導計画（2時間）

- ・新見南吉の詩を読もう。（本時）
- ・詩のイメージや主題について考えよう。

- 6, 本時の指導

- (1) 目標

- ・イメージの筋を追うことによって、作品の持つおもしろさや特質を読み味わう。
- ・友だちの意見や考えをしっかりと聞き、自分の考えを深め発表する。

学習活動	教師の働きかけ
1, めあての確認	・思ったことを発表できる雰囲気を作る。

- 2, 題「天国」について、自分の思いを発表する。

- ・天国についてのイメージを膨らませる。
- ・できるだけ多く発表をさせる。
- ・友だちと、自分のイメージの違いを考えながら聞いているか、天国のイメージが膨らんでいるか 【関心・意欲】

- 3, 内容を読み取る。

- ①～②

おかあさんの持っている天国とは

- ③～⑤

なぜおかあさんの背中が天国なのか。

- ⑥～⑪

- ⑫～⑬

- ・自由に考え、思いを発表させる。

- ・文末表現に気づかせる。

- ・話者に同化させながら、幼児体験と絡ませ発表させる。

- ・天国のイメージの変化に気づいているか。

- 4, 構成のおもしろさを考える。（感想発表）

- ・サンドイッチ型の作品であることを理解させる。

- ・作品を色にたとえると何色だろうか。

- ・なぜその色を選んだかを発表させ、お互いのイメージを共有させる。（話す・聞く）

- 5, 詩を読み、まとめとする。

- ・心を込めて読んでいるか。

- 7, 教材について

- (1) 作品の特質・おもしろさ

- ① サンドイッチ型の構成

13行1連の詩であるが、はじめの2行と終わりの2行が同じで、中9行を包み込んだサンドイッチ型である。はじめの天国のイメージと、最後の天国のイメージの変化、広がり気づかせ、同じ表現でもイメージは異なることに気づかせたい。

- ② 文末表現の変化

前半では「います。います。・・・います。」と現在形で表現され、7行から11行までは「・・・ました。・・・ました。・・・ました。」と過去形で表現され、13行ではまた「・・・います。」と現在形で表現されていることの意味・効果を考えさせたい。

- ③ 反復

<おかあさんたち><どのおかあさんも><おかあさんの>など、反復の持つ意味も考えさせたい。

- (2) イメージの筋

- ① 題名「天国」のイメージ（想像的）

② 1～5行まで<どのおかあさんも>持っているたった一つの天国。それは背中であると知らされるが、背中がなぜ天国であるのかと「問い」を生み、現実の母の背中の体験イメージへと広がる。

③ 6～11行までは過去形で語られているため、とっくに忘れた過去の思い出として背中がイメージされている。

④ 終わりの2行は、はじめの2行と同じ表現であるが、イメージは変化し、天国としての母の背中が強烈にイメージされ、お母さんの天国が見えてくる。

- (3) 主題

優しい背中を持つお母さんは、子ども達の心のふるさとであり、安心して飛び込んでいける世界である。

<討議内容>

授業者

- ・「自分の思いを話そう」という目標を持って取り組んでいる。
- ・生活日誌などで常態・形態などしている。
- ・学級のつながりを大事にしている。
- ・家族とのつながりを考えてくれて良かった。
- ・真面目な子どもが多い。
- ・言葉をたくさん知っている。

参観者

- ・読み方のスキルが身につけていて、友だちの発言について「あ〜」と納得できていた。
- ・質問とつながらない発言をした子どもも、先生がうまくフォローしていた。発達障害の子どももクラスの中で浮かない工夫ができています。
- ・発表できるような雰囲気、一人ひとりの意見を大事にする姿勢ができていますから発表が多いと思う。
- ・「やって良かった」という成功体験につながっている。
- ・ねらいどおりにできている。
- ・「仲間づくり」のベースができています。
- ・授業規律も出来上がっている。このことは日々の指導の中で子ども達をどのように育てたいのかという担任の思いが明確に子どもに伝わっているものと思う。

中学校で

- ・「発表しなくていい」雰囲気であれば発表しなくなってしまう。
- ・注意すべきところでしっかり注意する（場面を捉えて言う）。
- ・優等生が外されない学級づくり、授業づくり。
- ・間違ってもよいという雰囲気づく。

【天国】

- ① おかあさんたちは
- ② みんな一つの天国をもっています。
- ③ どのおかあさんも
- ④ どのおかあさんももっています。
- ⑤ それはやさしい背中です。
- ⑥ どのおかあさんの背中でも
- ⑦ 赤ちゃんが眠ったことがありました。
- ⑧ 背中があっちこっちゆれました。
- ⑨ 子どもたちは
- ⑩ おかあさんの背中を
- ⑪ ほんとうの天国だとおもっていました。
- ⑫ おかあさんたちは
- ⑬ みんな一つの、天国を持っています。



6年生の授業風景

<来年度一日教研>

日 時—平成27年8月21日（金）

講 師—鹿嶋 真弓 先生（高知大学准教授）

講演内容—学級づくり・学級集団づくりを主にした講演

鹿嶋先生のプロフィール

先生は足立区立蒲原中学校や荒川区立第四中学校等の公立中学校で理科の教員として30年間勤務し、その後、神奈川県の変り市教育研究所所長を経て、平成13年1月より高知大学教育学部附属教育実践総合センターの専任教員として赴任し現在に至っています。著書には、『Q-U式学級づくり脱・中1ギャップ「満足型学級」育成の12か月』等があります。

校内暴力や学級崩壊を経験、生徒同士にコミュニケーションのきっかけを与える「構成的グループエンカウンター」を実践しています。6人ほどのグループに分かれて、それまで話をする機会の少なかった生徒同士も意見を交わし、コミュニケーションをとるようにさせるそうです。

主な研究テーマ

「教師による自立支援的指導態度」「中学生の充実感」「hyper-QUを活用した学級集団づくり」などです。

研究についてのPR

教育現場に起こる多種多様の課題について、現場で役に立つ実践事例をもとに理論的背景と照らし合わせながら一般化できる研究をめざしています。

課題解決のための糸口は、教育現場の最前線にいらっしゃる先生方がもっていらっしゃいます。よりよい教育をめざすためにも、一教員の枝に留まるのではなく、一緒に研究を進めながら広く社会に貢献できればと思います。

【山本 五十六 名言集】

『人を動かす』

やって見せて、言って聞かせて、やらせてみて、ほめてやらねば、人は動かす。

話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。

やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。

『人間味について』

人は神ではない。誤りをするとということに人間味がある。

<決算報告締切—12月22日>

教研集会の各部会決算報告の締切が近づいてきています。締切は12月22日までとなっています。請求書と領収書をA4用紙に糊付け、決算報告書と共に提出して下さい。残金がある場合は返納して下さい。尚、事業実績報告書は1月末となっています。

提出報告書様式は、ホームページに掲載されています。不明な点は研究所までお問い合わせ下さい。



算数
数学部会

